

## 地域と連携した安全で安心なすまい・まちづくり

神戸市では、建築物の安全性・適法性の確保などを目的として「新神戸市建築物安全安心実施計画」を推進しており、その一環として、平成16年度から、地域住民がすまい・まちの安全について考え、実践できるように、地域の活動を支援しています。

今年度は兵庫区和田岬地区で活動支援を行っており、今回その状況をご紹介します。

(和田岬での活動の様子は、和田岬地区ホームページ「まるごと和田岬」(<http://wadamisaki.com>)にも掲載されております)

### 1. 出前トーク

まず昨年11月11日(金)に市職員が地元に出向き「出前トーク」を行いました。32名の方の参加のもと、安全で安心なすまい・まちについて理解を深めてもらうため、住民の方に建築の規則や構造などの基礎知識をお話しました。



### 2. ワークショップ

次に12月4日(日)にワークショップを行いました。

39名の方が参加され、「安全で安心なすまい・まちにするために住民としてできること」をテーマに6~7人のグループに分かれ、各グループで意見を出し合い、グループごとに意見を模造紙にまとめて皆さんの前で発表しました。

ワークショップは、ゲーム感覚で様々な視点から意見を出し合うので、参加者相互の「気づき」の場とな

ります。



### 3. 活動プラン

和田岬地区では、ワークショップで出された意見をもとに、これから地域で「活動プラン」をまとめ、ポスターやチラシを作成して地域の方に周知し、実践していきます。

この活動は、16年度から始まり、東灘区深江地区と長田区二久塚地区(二葉町・久保町・腕塚町の各9・10丁目)では、既に活動プランが出来上がって実践しています。17年度は兵庫区和田岬地区に続き、灘区の灘中央地区でも活動を始める予定です。もっと多くの地域に活動の輪を広げて、日本で最も安全なすまいのまち“神戸”をめざします。



(都市計画総局建築指導部安全対策室)

# 安心の毎日 すまいの耐震化！

## 1. すまいの耐震化とは

### (1) 住宅の倒壊と命

阪神・淡路大震災では、建物の瞬時の倒壊により、多くの市民が犠牲となりました。

「国民の生命と財産を守る（建築基準法）」はずの建物が凶器となったのは痛恨の出来事でした。倒壊した住宅に閉塞され、焼死や身体圧迫により死に至った例や、家具の転倒によるケガも生じました。また、住宅の滅失、損壊により、小中学校やテントでの避難生活を余儀なくされました。このように、すまいの倒壊により尊い命と日常生活が奪われたことは、被災都市として忘れてはならない事実です。

### (2) 住宅の倒壊とまち

もし住宅の倒壊がなければ出火箇所が減少し、あれほどの大火となり、まちを焼き尽くすこともなく、救助活動や避難を阻害することはありませんでした。行政施設や教育施設が避難所となり本来の機能を損なわれたのも、おびただしい住宅が倒壊したからです。

住宅は、ひとつひとつは都市の構成要素に過ぎませんが、その健全さがまちの安全・安心に大きな貢献をしていることを思い知らされました。まちの防災性を高めるためには、住宅ひとつひとつが災害に耐え、家族の生命を守り、復旧・復興の拠点となるように耐震化を促進していくことが必要です。

## 2. 神戸市における耐震化の取り組みの特色

### (1) 相談窓口の一本化

本市独自の体制として、相談窓口を神戸市すまいの安心支援センター（すまいるネット・4面参照）一箇所に集中し、耐震診断の申し込みから耐震改修・家具固定業者の紹介まで、一貫したワンストップ窓口として充実した情報提供を行い、市民の利便に供しています。相談は、経験豊富な一級建築士の相談員が当るなど、高い問題解決能力を持っていることがすまいるネットの特色です。

### (2) 診断後の相談と民間組織との連携

耐震診断の実施後、診断員が再度自宅を訪問し、診断の内容をもとに今後の対応策などの相談に応じるなど、きめ細かい対応を行っています。工事業者の紹介を希望する方には、地元業者でつくる「神戸市すまいの耐震化ネットワーク」の紹介も行います。

このように、相談から工事まで一貫した支援体制をと

っているのは、本市独自の取り組みです。

### (3) 命を守る耐震化

また、本市では昨年、下記の補助制度を創設し本年1月5日より運用を行っています。詳しくは、すまいるネット（4面参照）までお問い合わせください。

#### ① すまいの耐震性向上のために

耐震改修については、兵庫県の補助制度に上乘せを行うと共に、県が補助していない小規模な改修に対しても補助を行います。具体的には、震度6弱程度の地震に対して、“瞬時には倒壊せず市民の命を守る”という観点での改修工事も補助対象としており、市民の負担（費用負担、工事期間の煩わしさ等）の軽減にもなっています。

#### ② ぐらしの耐震性向上のために

阪神・淡路大震災では、住宅の中での怪我の約半分は家具等の転倒落下によるもので、家具の固定化が大切であることが再認識されました。このため、すまいの耐震化に加え、高齢者・障害者の方がいる世帯に対し、「家具固定費の補助」を新設しました。この補助は、11年を経た、震災の体験を風化させないための警鐘ともなるでしょう。

#### ③ まちの耐震性向上のために

老朽木造住宅は耐震性が低く、震災時に倒壊すると、避難経路の閉塞や火災の原因ともなります。

この老朽木造住宅が密集する地区を防災再開発促進地区（市内10地区、約619ha、4面地図参照）に指定し、解体撤去費を補助し、“市民の命を守る”という観点から安全安心なまちづくりを

推進しています。

### (4) 市民の目線での推進

このような耐震化対策の敷居を低くした制度の創設により、民間・行政の実施・支援体制が出来上がり、現在81.3%である耐震化率を、今後10年間で90%に上げることをめざします。今後は、専門家の育成をいっそう拡充していくと共に、コミュニティ（自治会や管理組合）単位でのきめ細かい相談会の開催など啓発活動を強化し、市民が安心してすまいの耐震化に取り組める環境を充実していきます。

（都市計画総局住宅部住宅政策課）



倒壊比較（右が補強済、左が未補強）



倒壊比較

（震度7で加震、未補強住宅の1Fが崩壊）



倒壊比較（未補強住宅が全壊）

写真提供：（独）防災科学技術研究所

# 「災害図上訓練（DIG）」で思わず白熱！

## ■ 思わず立ち上がってしまうほどに

こうべまちづくり学校専修講座C（「安全で安心なまちをつくる」コミュニティづくり）コースにおいて、コミュニティ安全マップを活用した災害図上訓練〔Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）〕を実施しました。

DIGとは、地図上のある箇所で災害が発生したと想定し、その初動対応について地図を利用し幅広い課題を参加者全員で考える訓練です。

昨年12月20日に行った訓練では、地図を囲んで議論していくうちに白熱し、思わず身を乗り出す人がたくさん出ました。その活気あふれる様子をご紹介します。

## ■ DIGの特徴

DIGの実施にあたって、岡田須磨消防署長から、「バケツリレーや消火器を用いた実動型訓練では気づ



かない、まちの資源や課題が見えてくる」、「準備が簡単でお金もかからない」、「全員で参加できる訓練である」などのDIGの特徴や実施方法などについて講義を受け、次に緊張の瞬間である「災害想定」の発表となりました。

### 災害想定

平成17年12月20日16時に起こった直下型地震による震度6弱の揺れに伴い、〇〇町〇丁目〇番地の商店で小火災が発生した。消防車は他の地域に出動しており、到着の見込みは立っていない。風は西から東に向けて、わずかに吹いている。商店内の人は屋外に避難したが、お年寄りや買い物客等、周辺の住宅や店舗に人が20名程度残っている。

## ■ 新たな発見が

受講生のみなさんは、前回の講座でまちあるきを行った「板宿小学校区防災福祉コミュニティ」の「災害対策本部の一員」と仮定して、どのような初動対応が必要であるか話し合いました。地図は同地区のコミュニティ安全マップを用いて実施しました。

### 話し合いの一例

- ・「近くにある消火栓を利用して消火にあたろう」
- ・「資機材は小学校の防災資機材庫にあったぞ」
- ・「消火栓は使えないとの情報（スタッフからの条件設定）が入ってきました」
- ・「そうしたら近くの防火水槽やプールを利用しよう」
- ・「バケツも防災資機材庫にあったぞ」
- ・「川の水も使おう、でも堰き止める必要があるな」
- ・「土のうで堰き止めよう」
- ・「土のう袋には土がないので布団やゴミを詰めよう」

このように初動対応として必要な行動を次から次と連鎖させてイメージし、地図を見ながらみんなで話し合うことで、防



災上の資源を発見すると併せて、「火災地点と水源との距離を考えると本当はバケツが不足している」などの課題に気づき、その解決策としての日頃の備えを考えることとなりました。

このDIGの開発にあたった富士常葉大学環境防災学部の小村隆史助教授は、「DIGは従来の実働型防



地図には情報が満載

災訓練と異なり、缶ビールを片手に気軽に取り組める訓練で、地図を囲んで、みんなでワイワイと話し合うことにより、災害時に助け合える仲間づくりが期待される」と言われています。

実際にやってみると本当に楽しい訓練です。DIGに興味を持たれた方は、下

記のホームページを参考に、ぜひ一度、取り組んでみてはいかがでしょうか。

(<http://www.e-dig.net/O101.html>)

(危機管理室)

# 空から見た震災復興写真展

期間：平成18年1月5日（木）～1月31日（火）

水曜日（11、18、25日）休館

時間：午前10時～午後6時

会場：神戸市立こうべまちづくり会館

1階オープンギャラリー



阪神淡路大震災から11年が経過し、協働の理念のもと、まちの復興も着実に進んでいます。

復興によるまちの移り変わりを「空から見た震災復興写真展」でご覧いただけます。

展示されている写真は震災復興土地区画整理事業・再開発事業が行われている区域を震災前、震災直後、現在の各時点で、航空機から撮影したもので、それぞれの場所での復興によるまちの変化がよく分かります。

主催：神戸市都市計画総局

こうべまちづくりセンター

入場は無料で、ご自由にご覧いただけます。

※ 駐車場はございませんので、公共交通機関でお越しください。

地階ギャラリーの予定

期 間	内 容 ・ テ ー マ	主 催 者
1月26日(木)～31日(火)	公募写真展	(財)兵庫労働者福祉基金協会
2月 9日(木)～14日(火)	4人展イロトオンガク(アクリル)	野口 裕美
2月16日(木)～21日(火)	総合学園ヒューマンアカデミー神戸校 学生作品展(水彩・写真 他)	ヒューマンアカデミー神戸校



防災再開発促進地区

(老朽木造住宅解体撤去費の補助対象地区・2面右欄の参考)

※密集市街地整備法において定められている、防災街区としての整備を図るため、特に一体的かつ総合的に市街地の再開発を促進すべき地区

耐震診断の申し込み、  
すまいに関する相談は



神戸市すまいの安心支援センター

愛称：すまいるネット

耐震診断の受付 222-0186

すまいの相談 222-0005

受付は：午前10時～午後5時

水曜・年末年始(12/29～1/3)：休

【住所】

中央区雲井通5丁目サンパル4階

JR三ノ宮 東へ5分

【ホームページ】

<http://www.smilnet.kobe-jk.or.jp/>